



鳳 書 實
OHANNOORI SEIRA

極濡れデイナー・

熟れた果実を貪られー



お水ちょうだい
歩けない

ダメコップじゃ
酔っぱらって
飲めない

悦二が飲ませて

ゴク
ゴク
ツツ



キス
キス

ちゅ
ちゅ



結花里

帰れないわ

悦二に
可愛がってもらわなきゃ
きっと今夜も眠れない



抱いて

ここで

今



“わかつてるよ”

悦二の黒い睫毛が
うなずくと



慣れた手つきで
下着から

女のふくらみを
解放させ

ゆつくり
大きく揉み上げてゆへ

とがり始めた
乳首を
見つける



長い指が
ブラウスの中へ
滑り込む

あ

ほごなへ

悦二……

好き

愛してる

むき出しになった
胸を押しつけるように
すがりつき

ねだるような
キスをする

ん

ん……

ん

長い指は
唇と同じく
濡れた所を
すぐとらえ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

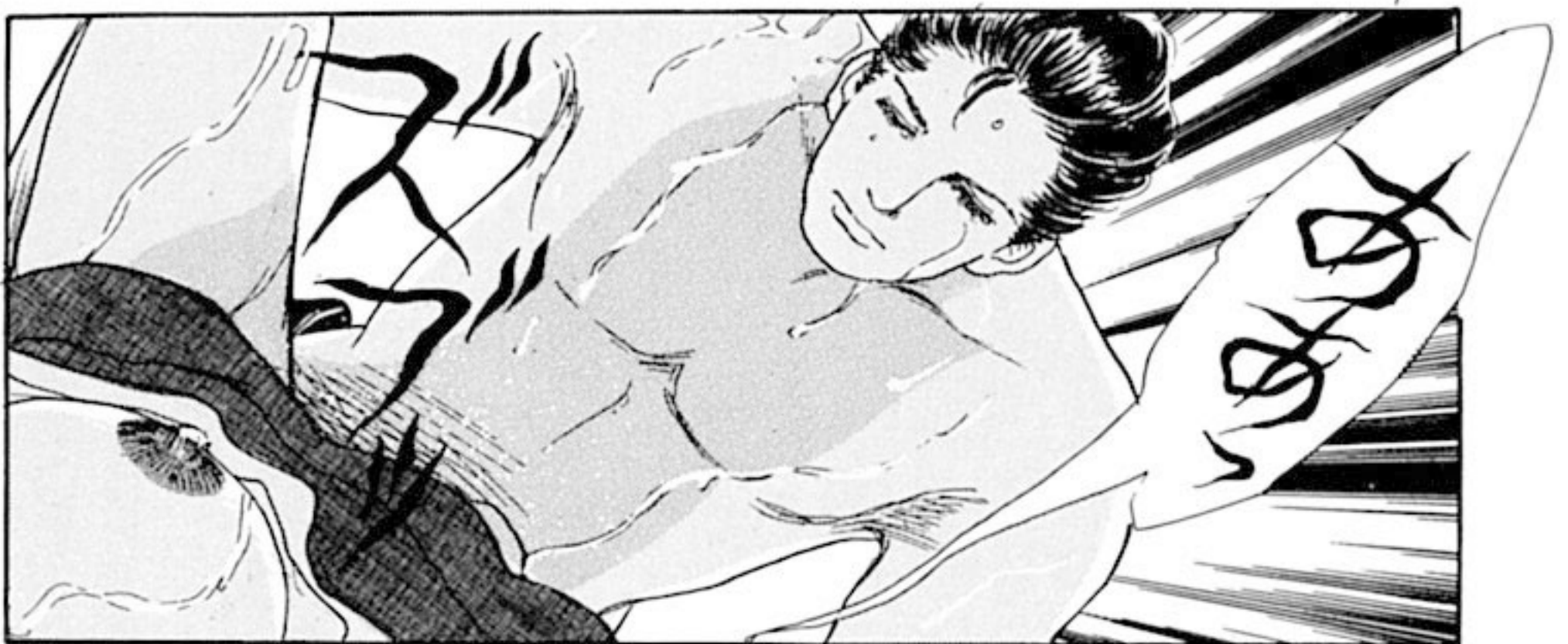
あっ

あぁん

細やかに

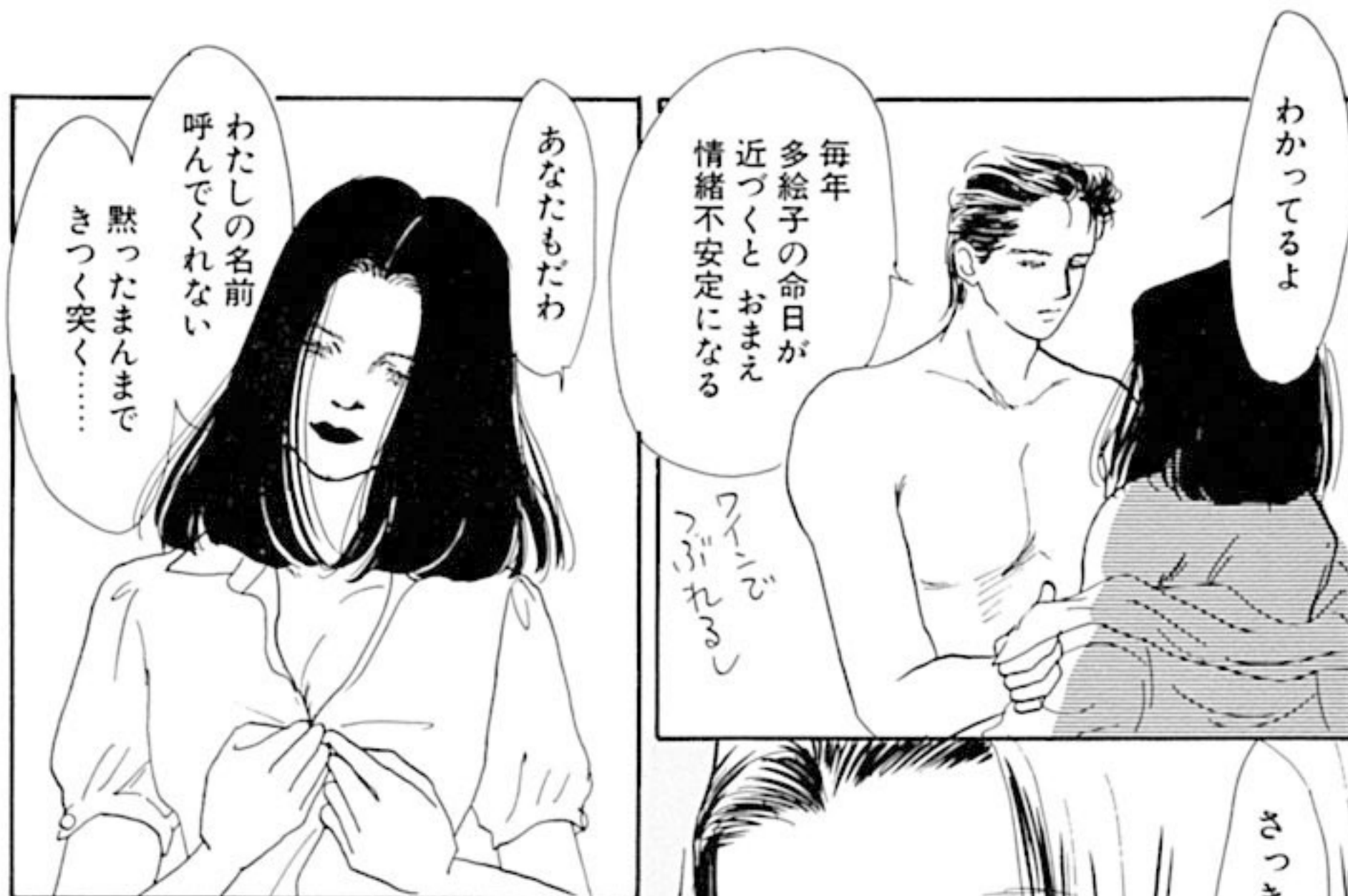
大胆に動く











わかってるよ

毎年
多絵子の命日が
近づくと おまえ
情緒不安定になる

あなたもだわ

わたしの名前
呼んでくれない

黙ったまんまで
きつく突く……

ワイで
つぶれるし

あ……



あした
7時に迎えにゆくよ



ごめん



こん



ひっく...

ひっく

.....

ひっく

多絵子...



まだだめ？



まだ
悦二さん

わたしに
くれないの？

多絵子

